長門の話題 Topics

第2回仙崎地区徘徊模擬訓練
市民協働で訓練を実施

3月10日(日)、第2回仙崎地区徘徊模擬訓練が行われ、地区住民や消防、警察、行政など約160人が参加しました

訓練では、まず参加者全員が鳥越2区集会場に集まり、訓練概要の説明などが行われました。続いて、所在不明者が発生したとの想定で、防災メールにより通知、住民は7人ずつの班に分かれて仙崎地区を徘徊する所在不明者を歩いて探しました。約1時間後には4人の所在不明者は全員見つかり、反省会が行われました。

所在不明者役の参加者は、「優しくしてもらって、とてもうれしかった」と感想を述べました。

▲所在不明者役の参加者に優しく付き添う

▼主催は長門市と仙崎思いやりネットワーク

日置地区で植樹交流会
緑の大切さを学び、育てる

3月5日(火)、日置総合運動公園で植樹交流会が開かれ、日置小学校3年生約50人がクヌギの苗木約70本を植樹しました。説明のあと、児童らはスコップを持って、千畳里山の会の会員に手伝ってもらい一生懸命作業しました。

作業終了後、全員で記念撮影をし交流会を終えました。

▼主催は林業研究グループ千畳里山の会

長門市から2人が入隊
高い志と誇りを持って

3月14日(木)、自衛隊に入隊する予定者の激励会が開かれました。入隊するのは、陸上自衛隊の南野雅さんと、海上自衛隊の山下達朗さんです。

南野さんは「仲間とともに精一杯やっていきたい」と話しました。山下さんは「長門魂を忘れずに訓練に励みます」と意気込みを述べました。

▼記念品を受ける山下さん（右）と南野さん

3高校から大津緑洋高校への継承式

歴史と伝統を引き継ぎ発展を

3月1日㈮、ルネッサながとで、大津高校・日置農業高校・水産高校から大津緑洋高校への継承式が行われ、3校の生徒や教職員、来賓など約750人が出席しました。それぞれの高校が最後の卒業式を迎えることから、この日に継承式が行われました。

式では3校の校長がそれぞれの学校の歴史についてふれ、「それぞれの高校の歴史と伝統は、大津緑洋高校に引き継がれます」と話しました。

その後、3校の校旗が大津緑洋高校の1期生である現在の2年生の代表に手渡され、継承式を終えました。

海上交通安全祈願祭

交通の安全と繁盛を祈る

2月24日㈰、仙崎の青海島観光汽船で、海上交通安全祈願祭が開催されました。この祈願祭は、観光船など海上交通の安全を祈願するもので、仙崎の八坂神社宮司により安全祈願神事が行われ、従業員と関係者合わせて約20人が出席しました。

祈願祭の神事が終わると、事前に応募した人たちが乗船しました。山口県内各地から子どもを含む104人が参加し、7隻に分かれて海上パレードを行いました。

観光船に乗り込んだ人たちは海上からの眺めを楽しんでいました。

▲内田委員長から提言書が手渡される

▼提言について、市長・副市長・幹部職員へ説明

ながと成長戦略検討会議が提言書を提出

産業振興の指針まとまる

3月15日㈮、長門市役所市長室で、「ながと成長戦略検討会議提言書」が同会議の内田委員長から大西市長に手渡されました。

ながと成長戦略検討会議は、市外の有識者から長門市の産業振興の起爆剤となるべき意見をいただき、低迷する本市の主要産業である農林水産業、観光業の状態を打破するために組織され、24年度は3回会議を行ってきました。

提言書を提出した内田委員長は、「長門は地域資産がたくさんあるというのが一致した意見。長門ならではの取り組みを意識を高く持って進めていっていただきたい」と述べました。

サル被害防止対策研修会

効果的にサル被害を防止

▲サルを撃退するための花火の発射を試す

3月8日㈮、サルによる被害が深刻な油谷地区でサル被害防止対策研修会が開催され、地区住民ら約30人が参加しました。今回は、山口県農林総合技術センターと、山口市仁保地区鳥獣被害対策協議会による研修が行われ、サルの生態や習性とそれに対応するための効果的な追い払い方法の説明がありました。

その後、追い払う際に使う花火の発射の方法や、サル接近警報システムについての説明が実地で行われました。

参加者は、サルへの対応方法について、認識を新たにしました。

萩山口信用金庫からの寄付金贈呈式

地域への応援、届く

3月8日㈮、長門市役所で萩山口信用金庫から市への寄付金贈呈式が行われました。

平成20年10月から今回で6回目となるこの寄付金は、約14万円。萩山口信用金庫の藤井伸榮理事長は「有効に使ってください」と大西市長に寄付金を手渡しました。

写真愛好家　三浦玲子さんが写真集を寄贈

野生動物の写真から学ぶ

3月13日㈬、仙崎小学校で、三浦玲子さんの写真集の寄贈式が行われ、仙崎小学校全児童と三浦さんの同級生ら合わせて約300人が参加しました。

三浦さんは、仙崎小・中・大津高校の卒業生で、2000年から本格的に写真撮影を始めました。このたび「野生の鼓動TANZANIA」を出版、市内の全小中学校と図書館に寄贈しました。

寄贈式で本を三浦さんから贈られた6年生の上田明日香さんは、「いつまでもみんなで本が見られるように、大切にしたいと思います」と感謝の気持ちを述べました。

▼児童らに寄贈した写真集の説明をする三浦さん（中央）

東日本大震災被災地への支援を続けよう！

東北地方太平洋沖地震に係る被災者支援長門市市民会議から

主な支援活動の状況

■募金（3月12日現在）

◆日本赤十字社山口県支部長門市地区（市福祉課）
21、065、796円

◆山口県共同募金会長門支会（市社会福祉協議会）
5、237、381円

日本赤十字社、共同募金会とも、募金期間が、平成26年3月31日まで再度延長されました。

まだまだ復興には支援が必要です。引き続き温かいご支援をお願いします

市民会議事務局
福祉課福祉係
TEL 23-1245

長門の人 People

布に囲まれた生活で人生を実りあるものに

キルトサークルゆう　**西川 和江** さん

4月20日(土)、21日(日)の2日間、第35回中央公民館まつりが開催されます。

これは、長門市中央公民館で活動している団体が、普段の活動の成果を発表しようと毎年開催されているものです。

今回は、展示部門に29団体。ステージ部門に29団体が参加。

西川さんたち「キルトサークルゆう」のメンバーは現在、一年間制作してきた作品の総仕上げに入っています。

憧れの布に囲まれた生活

子どもが幼稚園に入園し、自分の時間が持てるようになったころ、パッチワークに囲まれた生活を送るアメリカのテレビドラマが目にとまりました。それから25年間、布と見つめ合う生活を送り続けています。

集うことが楽しみ

平成3年に現在のグループを発足。毎週水曜日の10時から16時まで15人のメンバーが集まり活動しています。年齢層は広く、50代から80代まで。家なら行き詰まる作業もみんなの意見を聞きながら作業すれば前へ進める。この場所に集まっておしゃべりをすることが、今いちばんの楽しみとなっているようです。

無限に広がる可能性

恐れずに様々な色を組み合わせるのが西川流。思いがけない効果が生まれ、無限に可能性を秘めているところに魅力があるといいます。

好きなことが人のために

学校や公民館の活動に協力する機会があり感謝されました。手の動く限りは、地域や人々の役に立てた喜びをかみしめながら、針を手にします。

▲展示される作品の数々